

水窪月報

ふおとりっぷ No.29

令和5年1月13日(金)

浜松山里いきいき応援隊

山崎 洸一



電話: 080-2650-6561

メール: koh1999c@gmail.com

明けましておめでとうございます



2023年の幕が明けました。昨年に引き続き、年越しは水窪で迎えました。紅白歌合戦を観終えて神原八幡宮に向かうと、ちょうど八幡神楽が始まるという頃合いでした。日付が変わり、神楽が奉納されるなかで多くの方が初詣に訪れ、八幡宮周辺は新年らしい雰囲気になりました。昨年の厳しい寒さとは違って変わって穏やかな元日となり、幸先の良さを感ぜさせる年越しとなりました。

私の山いき隊任期も半分を過ぎて、1年と少しを残すばかりとなりました。昨年は水窪駅での写真展示や写真集の制作など、新しいことに力を注ぐことの多い1年でしたが、今年は今一度原点に立ち返り、地域の課題や困りごとのきめ細かく応えていくことが目標です。水窪の山いき隊は当面のあいだ一人での活動になりますが、来春に向けて新隊員の募集も始まっており、これからの変化が楽しみな2023年です。

八幡神楽

12月23日、文化会館にてスノードームづくり体験が行われました。クリスマス間近での開催ということで、私もサンタクロースの姿に扮して参加し、会場を盛り上げました。スノードームを作る過程で待ち時間が発生するため、そのあいだに「ツリーの下で“釣リー”体験」が行われました。「サンタさん！」という呼び声と共に会場へ姿を現し、後ろからはトナカイさんがそりにプレゼントを載せて登場。子供たちがプレゼントを釣りざおで釣るという企画です。



釣りのあいだは、サンタさんとして釣りざおを配ったり、獲物のプレゼントを釣りやすいように動かしたりと、企画の進行を担当しました。最終的には全員がプレゼントを釣り上げることができ、良かったです。待ち時間もあっという間に過ぎ去り、スノードームの制作に戻ると、みな思い思いの作品を作り上げ、机の上には彩り豊かなスノードームがたくさん並びました。サンタ姿に子供たちからツッコミが入ることもありましたが、それもまた思い出になる楽しいイベントでした。



(左)完成したスノードーム (上)スノードーム制作の様子 (右下)ツリーの下で“釣リー”を楽しむ様子

スノードームづくり体験で参加

ミニ門松づくり



完成した門松

12月26日、文化会館の音楽準備室にてミニ門松づくりの講座が行われました。子どもたちの門松制作を手伝うと共に、折り鶴など門松に飾る小物を作り、会の進行を支援しました。完成した門松のなかには、鶴と亀を乗せることで「鶴は千年、亀は万年」の縁起にあやかかった発想力の豊かな作品が見られました。また、どの作品もそれぞれ目を引くポイントがあり、個性を感じる賑やかな門松が並びました。終盤には余った紙粘土で様々なオブジェが作られ、子供たちの創作スキルには驚かされるばかりでした。



餅つきの様子

12月25日、西浦にある田楽の里にて開催された餅つきに参加しました。昨年よりは暖かいなかでの開催になりましたが、田楽の里周辺の土は凍っており、残雪も多く残っているなど、冬らしさも感じる1日でした。クリスマス当日に行われた餅つき。子供たちが枕元のプレゼントに喜んでいたりであろう時間に、すぐに年越しへと気持ちを切り替えて、日本ならではの過ごし方を感じていました。



山住峠から遠州灘方向を見る(昼)



山住峠から遠州灘方向を見る(夜)
※赤丸内の線は船の灯り

西浦の餅つき

水窪から海を望む

山住峠の魅力を訪ねて

12月の中ごろに、地域の方からある依頼を受けました。それは「山住峠から見える海の写真を撮影して欲しい」というもの。実際に海が見えるというポイント、峠から林道野鳥の森線を見渡すと、遠州灘と共にごく僅かで、見える景色もかなり小さいものですが、「見える」という事実が普段

この線が見えている場所を昼間の写真に照らし合わせると海上にあたることから、浮かんでいる飛行機のように見えて実は船であることが分かります。「水窪から海上に浮かぶ船が見える」ことは、山深さを逆手に取った水窪の新たな魅力となりそうです。

の水窪での生活では想像の出来ないことで、ロマンを感じます。さらに面白いのは夜の光景です。街明かりの少し上側を浮かぶようにいくつかの点が動いているのが分かります。これをカメラで撮ると、街明かりは動いていないのに対して、浮かんでいた点は線となって浮かび上がります。